ミーツ・アート　森の玉手箱　好評開催中

photo: ikuko hirose

ミーツ・アート MEETS ART 森の玉手箱

展覧会概要

彫刻の森美術館は、1969年の開館当時より彫刻のための野外美術館として、彫刻芸術の振興をはかってきました。近代彫刻の歴史をたどることができる優品や多彩な現代彫刻の数々が箱根の山に集い、自然の美しさ猛々しさと融け合う場には、彫刻と自然と来館者との対話が生まれます。

一方で、1972年から現在まで東京・丸の内仲通りに展示する彫刻の監修を務め、“環境芸術”というコンセプトのもと、地方自治体や民間企業などとともに「芸術のあるまちづくり」に取り組んできました。2010年からは、神戸・六甲山を舞台にした彫刻の枠にとらわれない現代アートの展覧会『六甲ミーツ・アート 芸術散歩』を企画制作しています。

彫刻の森美術館では、2014年9月に『六甲ミーツ・アート　芸術散歩』が5周年を迎えることを記念して、第1～4回より選出した作家8名によるグループ展「ミーツ・アート　森の玉手箱」を開催しています。開館当初からある井上武吉設計による本館ギャラリーと、その周りの空間を活かした展示を行っています。“玉手箱”に見立てたギャラリーで、奇想天外な作品をお楽しみください。

展覧会詳細

【展覧会名】　ミーツ・アート 森の玉手箱
【会　　期】　2014年3月22日（土）～8月31日（日）

【会　　場】　彫刻の森美術館　本館ギャラリー（一部、屋外展示場）
（〒250-0493　神奈川県足柄下郡箱根町二ノ平1121）
【開館時間】　9：00～17：00（年中無休・入館は閉館の30分前まで）
【休 館 日】　なし（年中無休）
【入 館 料】　大人1,600円 / 大・高校生1,200円 / 中・小学生800円
【交通案内】　箱根登山鉄道「彫刻の森」駅下車、徒歩2分

【主　　催】　彫刻の森美術館（公益財団法人 彫刻の森芸術文化財団）
【後　　援】　フジサンケイグループ
【協　　賛】　六甲山観光株式会社
【協　　力】　art space kimura ASK? / 株式会社キーテック / 株式会社造景社
クーパービジョン・ジャパン株式会社 / 国際ディスプレイ工業株式会社

【出品点数】　21点

「六甲ミーツ・アート 芸術散歩」とは

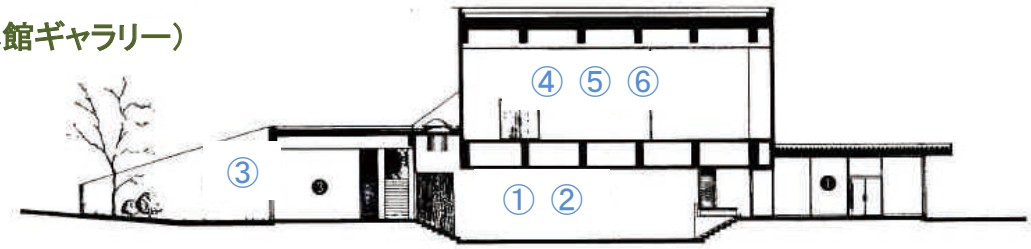
神戸・六甲山で2010年より毎年9月から11月に開催されている現代アートイベント（主催：六甲山観光株式会社、阪神電気鉄道株式会社）。公益財団法人　彫刻の森芸術文化財団が企画制作をおこなっています。展示場所は、六甲山上に点在する植物園やピクニックエリア、展望台などの野外と、ケーブル電車や駅舎、ホテル、オルゴールミュージアムなどの屋内で構成され、招待・公募・公演アーティストによる展示・公演をおこなっています。

5周年を迎える今年は、9月13日（土）から11月24日（日）まで開催いたします。

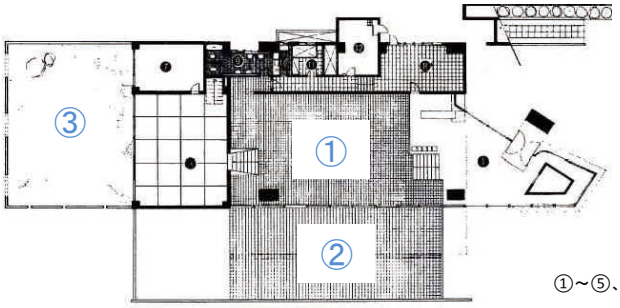
ミーツ・アート MEETS ART 森の玉手箱

展示作品紹介（本館ギャラリー）

本館ギャラリー　全体図



本館ギャラリー　1階/中2階



①～⑤、⑦　photo: ikuko hirose

①　しりあがり寿《回転体は行進するダルマの夢を視る》
2014年

だるま、モーター、スピーカー、音声再生機

＜作家の言葉＞
何かが回ると、それだけでそれは随分と存在の在り方を変えるものだと感心したのは、高田馬場駅のホームから眺めたエロティックな噴水が最初だっただろうか？　いやいやその前に「ガメラ対ギャオス」に出てきたギャオスをとらえるための回転展望台だっただろうか？　いずれにしろ2011年の展覧会あたりから隙あらば回してみせようと虎視眈々なのでありました。

②　谷山恭子《今日、ここ》
2014年

鉛、鉄、方位磁石、合板、塗料

＜作家の言葉＞
地面と同じ高さの鉛のテーブルには、まさにその場所の緯度と経度の座標が刻まれています。今日ここに来た証に、自分の名前と日付を鉛のテーブルに刻印で刻んでください。その刻まれた名前と日付をフロッタージュして自分の居た「時」と「場所」を記念に持ち帰る事ができます。この作品は地球上の今ここに居る事を感じ、訪れた人々の存在感を蓄積していく作品です。
※会期中、1回300円で参加できます。

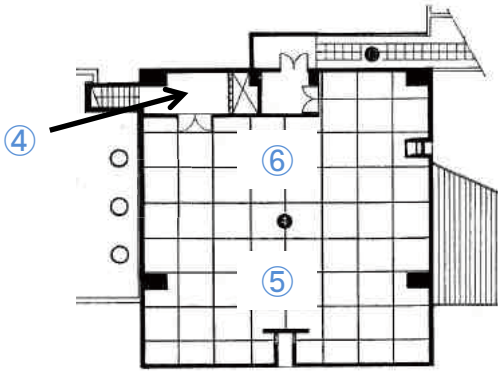
③　渡辺英司《図鑑庭園 2014》
1992-2014年

図鑑、針金、テープ

＜作家の言葉＞
図鑑に記録された植物やキノコなどの写真を図鑑そのものから切り取り、再度、空間に設置した図鑑庭園です。

ミーツ・アート MEETS ART 森の玉手箱

本館ギャラリー　2階



④　木村幸恵《インターフェイシャル・スカルプチャー》

2014年

合成樹脂、テグス、扇風機、鉄、ロープ、アクリルビーズ、マニキュアなど

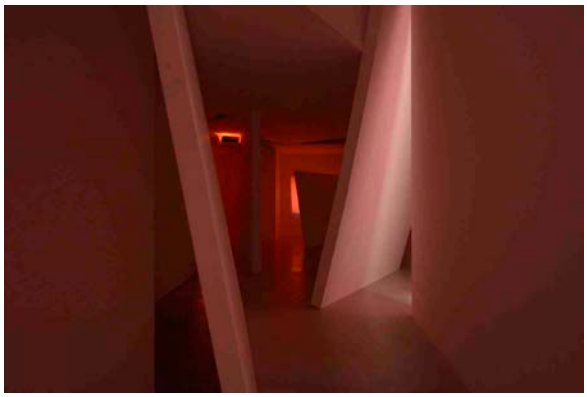
＜作家の言葉＞
西洋彫刻において身体とは、物理的に場所を占め、内部を満たす実体が存在することが前提となっていますが、現代では、皮膚的な界面によって支持されるインターフェイス的な身体のあり方がリアルであるように思います。重く量塊的な彫刻が多く立ち並ぶ場に、軽く界面によって形成される身体を介入させることで、われわれをとりまく世界のあり方までもが違って見えてくるのではないでしょうか。

⑤　北川貴好《栞壁》

2014年

木材、プロジェクター、アクリルケース

＜作家の言葉＞
建築の光窓を本のなかの栞（しおり）に見立て、閉じられた建築世界と外の世界をつなぐ、「光と壁のランドスケープ」。太陽光などの映像と合わせて、内と外のz新たな関係を提示します。



⑥　足立喜一朗《パラボラ》

2014年

ミラー、モーター、プーリー、ベルト、鉄、ミクストメディア

＜作家の言葉＞
晴れた日に樹々の下を歩けば、枝葉の隙間から光の筋が伸び地面をゆらゆらと照らす。それは何かしらの神聖さを帯びていて、少しだけ特別な体験であったりします。その神聖さだけを抽出することはできるのか。これは木漏れ日を作る装置です。

足立喜一朗《シャンデリア》

2010年

ミラー、モーター、歯車、プーリー、ベルト、鉄、ミクストメディア

＜作家の言葉＞
静寂の中でモーター音をたてながら複雑に回転するミラーボール。それはミラーボールという世俗的な象徴から逸脱した存在になりえるのか。世俗と神聖、それは紙一重であったりします。

彫刻の森美術館
THE HAKONE OPEN-AIR MUSEUM

展示作品紹介（屋外展示場）

足立喜一朗《LIFE BALANCER no.01》
2013年
鉄、FRP、ベアリング、植物、土、ミクストメディア

＜作家の言葉＞
私たちは命の重さは平等だと訴えますが、実際のところはどうでしょうか。私利私欲の為に動植物の命を奪い、一方では希少種だから頭のいい生き物だからといって保護したりします。それは倫理観、宗教観などによって左右されるのかもしれません。これは命の重さをはかる為の天秤です。今日もその違いがこの天秤を揺らしています。

⑦　イチハラヒロコ《ランゲージアート》
2013-2014年
木製キューブにペンキ、カッティングシート

＜作家の言葉＞
愛と笑いをテーマにした、ランゲージアートです。サイコロ状の立体に、合計12点の作品を展示しています。「こちらからは以上です。」
※「イチハラヒロコ恋みくじ」１回100円で期間限定販売。

---

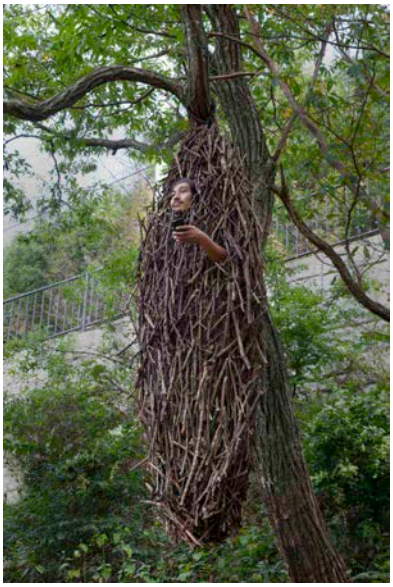
⑧　角野晃司《蓑虫なう》
2010年
落ち葉、落ち枝など

【展示期間】
5月2日（金）～5月6日（火・休）
8月9日（土）～8月13日（水）
9:00 ～ 17:00（時間中、蓑虫となってぶら下がり続けます）

＜作家の言葉＞
蓑虫として閉じこもりながらも、コミュニケーションを図ります。自然回帰と情報社会。どちらも必要とする生活を露わにします。

twitter
角野晃司 （bagworman）

撮影：原　孝志


撮影：高嶋 清俊
写真提供：六甲山観光株式会社

ミーツ・アート MEETS ART 森の玉手箱

作家略歴

足立喜一朗
Kiichiro ADACHI

1979年　大阪府生まれ、東京を拠点に活動
2004年　多摩美術大学美術学部環境デザイン学科卒業

2010年　釜山ビエンナーレ2010「Living in Evolution」（韓国）
2011年　「Trans-Cool TOKYO」（シンガポール美術館・台北市立美術館などを巡回）
2013年　個展「never die」（hpgrp gallery、東京）

イチハラヒロコ
Hiroko ICHIHARA

1963年　京都府生まれ、京都市在住
1985年　京都芸術短期大学ビジュアルデザイン科専攻修了

2001年　横浜トリエンナーレ（横浜）
2005年　愛と孤独、そして笑い（東京都現代美術館）
2013年　プレイルーム。イチハラヒロコ・箭内新一（京都国立近代美術館）

北川貴好
Takayoshi KITAGAWA

1974年　大阪府生まれ、東京都在住
1999年　武蔵野美術大学建築学科卒業

2008年　黄金町バザール（神奈川）
2010年　せんだいメディアテーク開館10周年全館プロジェクト
（せんだいメディアテーク／宮城）
2013年　北川貴好「フロアランドスケープ － 開き、つないで、閉じていく」
（アサヒアートスクエア／東京）

角野晃司
Koji KAKUNO

1978年　静岡県生まれ、東京都在住
2004年　武蔵野美術大学造形学部建築学科卒業

2010年　六甲ミーツ・アート 芸術散歩2010（11）（六甲山／兵庫）
2011年　ふくやまアート・ウォーク2011（福山城周辺／広島）
2011年　神戸ビエンナーレ2011（ポーアイしおさい公園／兵庫）

木村幸恵
Sachie KIMURA

1975年　北海道生まれ、東京都在住
2001年　武蔵野美術大学大学院修了

2002年　アート・スカラシップ　南條史生 部門（エギジビットLIVE／東京）
2009年　第一回所沢ビエンナーレ（西武鉄道旧車両倉庫／埼玉）
2012年　個展「クリスタル・キャノピー」（應典院／大阪）

しりあがり寿
SHIRIAGARI Kotobuki

1958年　静岡県生まれ、現在主に東京で制作
1981年　多摩美術大学グラフィックデザイン専攻卒業
1985年　単行本『エレキな春』で漫画家デビュー

2006年　フランスアングレーム漫画祭　日本×画展（横浜美術館／神奈川）
2011年　ブリキの方舟（広島市現代美術館）

谷山恭子
Kyoco TANIYAMA

1972年　愛知県生まれ、東京都在住
1996年　武蔵野美術大学造形学部大学院修了

2009年　越後妻有トリエンナーレ2009（新潟）
2012年　ART RINK 2012（神奈川）
2013年　瀬戸内国際芸術祭（香川）

渡辺英司
Eiji WATANABE

1961年　愛知県生まれ、名古屋市在住
1985年　愛知県立芸術大学彫刻科卒業

2001年　出会い（東京オペラシティ アートギャラリー）
2007年　笑い展：現代アートにみる（おかしみ）の事情（森美術館／東京）
2010年　あいちトリエンナーレ2010（愛知芸術文化センター／名古屋 愛知）